

## 川崎市建築物環境配慮制度受付番号 21018

建築物名称	(仮称)宮前平駅前計画新築工事
建築主	ノアフアシリティーズ株式会社 代表取締役 大西 雅之
建築物の所在地	川崎市宮前区土橋一丁目1番6
設計者氏名、建築士事務所名	上島 正久 大和ハウス工業株式会社 関東横浜流通一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,724.92㎡
用途	体育館またはスポーツの練習場、 物品販売業を営む店舗以外の店舗
構造	鉄骨造
階数	地上3階
工事完了年月	令和4年5月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	太陽光発電

# CASBEE川崎

■使用評価マニュアル：CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト：CASBEE-川崎2017(v.3.1)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)宮前平駅前計画新築工事	階数	地上3F
建設地	川崎市宮前区土橋一丁目1番6	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	86人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	物販店,集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年5月 竣工	評価の実施日	2021年8月11日
敷地面積	1,598㎡	作成者	大和ハウス工業株式会社関東横浜流通一級建築士事務所 上島 正久
建築面積	1,287㎡	確認日	2021年8月25日
延床面積	2,725㎡	確認者	大和ハウス工業株式会社関東横浜流通一級建築士事務所 上島 正久

外観パース等  
パースの公表を希望される場合は  
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 0.8</b></p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p><b>標準計算</b></p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b></p> <p><b>Q のスコア = 2.4</b></p>		
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>Q1のスコア= 2.8</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q2のスコア= 2.9</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>Q3のスコア= 1.3</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b></p> <p><b>LR のスコア = 3.3</b></p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>LR1のスコア= 3.6</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>LR2のスコア= 3.2</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>LR3のスコア= 3.2</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>2.0</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.9/4.3	1.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>2.7</b>
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能			
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御		0.4/0.7	2.5
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.5/2.3	1.0
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用		3.6/5.0	3.6
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避		3.0/4.7	3.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>3.0</b>
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	2.8
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減		2.6/4.0	3.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.2
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>2.5</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.5/2.3	1.0
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BEI=0.61		
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用		3.6/5.0	3.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.6**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.8/1.3	3.0
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BEI=0.61		
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用		3.6/5.0	3.6

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

**GASBEE-川崎2017年版**  
**(仮称)首都圏平野駅前計画新築工事**

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
	G	W	R	H						
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
<b>4 空気質環境</b>										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	2.9
<b>1 機能性</b>									<b>2.6</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>									<b>3.0</b>
1	広さ・収納性								
2	高度情報通信設備対応								
3	バリアフリー計画								
<b>1.2 心理性・快適性</b>									<b>1.4</b>
1	広さ感・景観								
2	リフレッシュスペース								
3	内装計画								
<b>1.3 維持管理</b>									<b>3.5</b>
1	維持管理に配慮した設計								
2	維持管理用機能の確保								
<b>2 耐用性・信頼性</b>									<b>2.7</b>
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>									<b>3.0</b>
1	耐震性(建物のこわれにくさ)								
2	免震・制震・制振性能								
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>									<b>2.8</b>
1	躯体材料の耐用年数		R						
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R						
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R						
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R						
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R						
6	主要設備機器の更新必要間隔		R						
<b>2.4 信頼性</b>									<b>2.2</b>
1	空調・換気設備								
2	給排水・衛生設備								
3	電気設備								
4	機械・配管支持方法								
5	通信・情報設備								
<b>3 対応性・更新性</b>									<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>									<b>4.2</b>
1	階高のゆとり								
2	空間の形状・自由さ								
<b>3.2 荷重のゆとり</b>									<b>3.0</b>
<b>3.3 設備の更新性</b>									<b>3.0</b>
1	空調配管の更新性								
2	給排水管の更新性								
3	電気配線の更新性								
4	通信配線の更新性								
5	設備機器の更新性								
6	バックアップスペースの確保								
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>									<b>—</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>				G	W				<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>				G					<b>1.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>									<b>2.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>									<b>3.0</b>
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>				G	W				<b>1.0</b>

LR 建築物の環境負荷低減性									3.3		
LR1 エネルギー								0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H					1.0	0.20	-	1.0
2 自然エネルギー利用	W		H					3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化	W		H	[BEQ][BEIm] =	0.61			5.0	0.50	-	5.0
4 効率的運用								3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価								3.0	1.00	-	-
4.1 モニタリング	W		H					3.0	0.50	-	-
4.2 運用管理体制	W		H					3.0	0.50	-	-
集合住宅の評価								-	-	-	-
4.1 モニタリング	W		H					-	-	-	-
4.2 運用管理体制	W		H					-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル								0.30	-	-	3.2
1 水資源保護	W	R						3.0	0.20	-	3.0
1.1 節水								3.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60	-	-
1				雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-
2				雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-
2 非再生性資源の使用量削減								3.3	0.60	-	3.3
2.1 材料使用量の削減	W	R						2.0	0.11	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W	R						3.0	0.22	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R				断熱材		3.0	0.22	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R						3.0	0.22	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W	R						-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W	R				躯体+軽鉄+仕上材		5.0	0.22	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避								3.0	0.20	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0	0.30	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避								3.0	0.70	-	-
1	W			消火剤				-	-	-	-
2	W			発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-
3	W			冷媒				3.0	0.50	-	-
LR3 数地外環境								0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮	W			LCCO2=68%				4.2	0.33	-	4.2
2 地域環境への配慮								2.7	0.33	-	2.7
2.1 大気汚染防止								3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W	H					3.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制								2.0	0.25	-	-
1		R		雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-
2		R		汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-
3		R		交通負荷抑制				1.0	0.25	-	-
4		R		廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮								2.7	0.33	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	-
1				騒音				3.0	1.00	-	-
2				振動				-	-	-	-
3				悪臭				-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								3.0	0.40	-	-
1				風害の抑制				3.0	0.70	-	-
2				砂塵の抑制				-	-	-	-
3				日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制								1.6	0.20	-	-
1				屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70	-	-
2				星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-